



第80回テーマ:

六甲山を楽しく歩こう!

講演内容

- 六甲山のいろいろな遊び方
- 楽しい自然観察
- 油断大敵! 六甲山で遭難?



講師: ^{ねがし}根岸 ^{まり}真理さん
プロフィール

1961年(昭和36年)須磨区生まれ、47歳。六甲山登山歴47年。兵庫県立六甲山ガイドハウス「山の案内人」、(財)日本体育協会公認スポーツ指導員(山岳/上級指導員)、大阪府山岳連盟遭難対策委員、兵庫県山岳連盟自然保護委員。



アジサイを楽しんで歩く

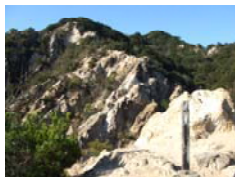
実施日:平成21年11月21日(土)
午後1時~3時20分
場所:六甲山自然保護センター

晩秋の六甲山は斑模様

晩秋の六甲山は薄曇りで、赤・黄・緑の斑模様の色づきでした。午前中の環境整備ボランティア活動には10名が参加。8月中旬にアセビを伐採した調査区画の3ヶ月後の状況を観察調査しました。気温は6℃前後で肌寒く、アセビの切り株からは10cm程度の幼芽が伸びていました。

六甲登山歴47年のナチュラルリスト

講師の根岸さんは、「自称フリーライター、何をやって暮らしているのか謎の人物。現在はガイドハウスで山の案内人をしている」と語られました。6月に出版された『六甲山を楽しもう』(神戸新聞総合出版センター刊)には、多種多様な六甲山の楽しみ方を紹介されています。六甲山初登山は1歳前に「裏山」の須磨アルプスをよちよち歩きました時で、以来47年間六甲山を楽しんでおられます。長い体験で培われた楽しみ方を初心者に伝えたいという想いで今回執筆されました。登山、アウトドアスポーツ、自然観察と、それぞれの領域でプロといえる熟達者です。



須磨アルプス

六甲山の多様な楽しみ方を棲み分ける

講演では、六甲山はいろいろな楽しみ方ができることを具体的な事例で紹介していただきました。有名な行事の六甲山全山縦走大会は人数制限がされていて、発売の初日に参加券が売り切れます。もう一つの名物は毎日登山、10の山筋で5000人が歩いているとのこと。

保塁岩のロッククライミングは海が見える爽快さが魅力。ロープを使わない岩登りのボルダリング、凍った滝を登るアイスクライミング、重い荷物を背負ってアルパインクライミングの練習などは、高い山を目指す人に向いています。一方、

観光スポットも一杯で、六甲山牧場は家族連れ向き、夜景、布引ハーブ園、高山植物園など、登山と関係のない人が楽しんでいます。逆に、観光ずれしていない秘境で静かな山歩きもできます。最近「山ガール」が増え、参加者からは「どこに行けば山ガールに出会えるか?」と真剣な質問が飛んできました。

遭難事故は「道迷い」が40%を占め、全国で年間2000件近くの山岳遭難が発生し、兵庫県は六甲山があるせいか近畿で一番多い。「自分の安全は自分で守る」と強調され、日帰りハイキングでも携帯される「非常セット」の数々が披露されました。トレイルランニングやマウンテンバイクなども盛んですが、歩行者とのトラブルに配慮したいものです。

楽しみ方の多様性という発想を大切に

自然環境の魅力だけでなく、俗化しているが故に、一般の人が気軽に楽しめるという魅力があると、柔軟な発想をされたのが新鮮であった。生物多様性が唱われる昨今、六甲山の楽しみ方の多様性に共感が集まりました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 板野 武一さん

昭和37年、造船所に入社直後山岳会に入り、剣方面山行を主に経験しました。若さにかまけ、毎週末は六甲山で登攀・歩き訓練に脇目も振らず打込みました。ブランクの後、今年4月のシルバーカレッジ入学後、仲間誘われ山行を再開しました。年代に合った、緩く楽しい自然観察的山行になりました。多面的活動者、根岸講師の講話は今後の山行に多いに参考になります。今後もこのセミナーに参加して楽しい山行と仲間を増やしたい。



主催:六甲山を活用する会

協力:兵庫県立人と自然の博物館

後援:兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド